

1 外壁仕上げ

ヘーベルパネルは寸法安定性が優れているといった長所がある反面、吸水しやすいなどの弱点を持っています。ヘーベルパネルへの仕上げにあたってはこれらの特性をご理解の上、材料および工法を選定してください。

なお、ヘーベル外壁は外部側、内部側ともに仕上げが必要です。内部側の仕上げについては「VI-2 内壁仕上げ」をご参照ください。

1-1 外壁仕上げの適否

外壁仕上げの種類には、仕上塗材での仕上げ、張り仕上げなどがあります。外壁仕上げ材選定の目安をまとめると下表の通りです。選定にあたってはこの表の他 JASS23 (吹付け工事)、JASS18 (塗装工事) もご参照ください。

分類	概要	種類	特徴	適否
複層塗材仕上げ	下塗材、主材および上塗材の3層からなり、吹付けやローラー塗りまたはコテ塗りなどにより外壁を仕上げる工法です。一般に防水性が高く透湿性が低い性質を持っています。	複層塗材 E (アクリルタイル)	耐候性、防水性、耐アルカリ性にすぐれており、作業性がよく使いやすいため、最も多くの使用実績があります。	○
		複層塗材 Si (シリカタイル)	耐候性、耐汚染性、不燃性にすぐれ、防水性、放湿性を併せもち塗膜表面が堅牢です。	○
		複層塗材 CE (セメント系吹付けタイル)	耐候性、防水性、耐アルカリ性が高く、塗膜表面が堅牢です。	○
		可とう形複層塗材 CE (セメント系吹付けタイル：可とう性、微弾性、柔軟性)	セメント系 素地に対して付着が安定しています。下地との付着性をいかに発揮させるかが重要なポイントとなり十分な調整が必要です。	○
		防水型複層塗材 E	透湿性が比較的低いため、下地の調整、乾燥に注意が必要です。	△
		防水型複層塗材 RS		△
		防水型複層塗材 CE		△
防水型複層塗材 RE	△			
薄付け塗材仕上げ	単層で吹付けやローラー塗りまたはコテ塗りなどにより外壁を仕上げる工法です。透湿性が高く、防水性が比較的低い性質を持っています。耐久性に劣るため維持管理には注意が必要です。また、十分な下地調整が行われない場合、吸込みの違いや不陸等による仕上がりがムラになりやすいので注意が必要です。	外装薄塗材 E (樹脂リシン)	防水性能を確保するため、特に十分な下地処理が必要です。	△
		可とう形外装薄塗材 E (弾性リシン)		△
		外装薄塗材 S (溶液リシン)	溶剤系のためセメント系等下地調整塗材の選定に注意が必要です。	△
塗材厚付け仕上げ	単層で吹付けやローラー塗りまたはコテ塗りなどにより外壁を仕上げる工法です。	防水形外装薄塗材 E (単層弾性)	透湿性が比較的低いため、下地の調整、乾燥に注意が必要です。	△
		外装厚塗材 E (樹脂スタッコ)	重量感と立体感に富み、厚付けが可能です。色彩の種類が多く、耐久性・作業性に優れています。	△
張り仕上げ	成形版やタイル、石、モルタル等多様な仕上げがありますが、施工法も多様であり十分な検討が必要です。	成形版仕上げ	金属系等多様な仕上げが可能です。パネルまたはパネルを貫通して躯体に取り付けられた胴縁を使用するため施工が複雑になります。	△
		タイル張り仕上げ	日本建築工学会「ALCパネル外壁現場タイル張り工法指針・同解説(第3版)」に準じます。	△
		石張り仕上げ	仕上げ材としての重量が大きいため、地震時の性能確保などのため施工が複雑になります。	×
		モルタル塗り仕上げ	パネルの目地を消して仕上げると、ひび割れ発生により防水性や意匠性が損なわれる可能性があります。	×

○：適している △：注意の上使用する ×：不適